

0460

第二四第

決行指定

決裁指定

保存期限

大
臣

件
名

九八式固定機關銃假制式制定ノ件

番號

參與官

回附決裁

後	前
課名	運帶

決行（決裁）後
回覽課名

陸軍

房官曰大

了結	領受
昭和	昭和

年十一月五日

(裁決)行決
覽 回 後
長 局

課

出提	領聖
昭和	昭和

年	年
月	月
日	日

帶
長

號番
航本

卷九

連帶
長局

部長務

主務課長

主務員部

本部長

次官

次官

參與官

書記

陸軍省

14.8 ✓

第 15



首題兵器別紙兵器圖ノ通假制式トシテ制定相成度

追而本兵器ハ普通兵器トシテ取扱ヒ致度

右決裁ヲ請フ

陸

普

陸軍大臣ヨリ參謀總長ヘ

照會

首題兵器假制式兵器トシテ制定致シ度該兵器圖竝ニ審査成績ノ概要相

添へ照會ス

陸普第四九六四號 昭和四年八月九日

追而本件ハ陸軍軍需審議會ニ於テ可決セラレタルモノニ付申添フ

右異存ナキ旨回答アリタル後左案決行

陸

普

省副官ヨリ別紙配賦表ノ箇所へ
通牒
陸軍
首題兵器假制式兵器トシテ制定セラレシニ付關係圖書目錄ノ通送付
ス

追而本兵器ハ普通兵器トシテ取扱ハルルニ付申添フ

陸普第四二一〇號

昭和五年六月二十日

附屬品送附済

昭和拾五年十二月貳日

九一式固定機関銃假制式兵器圖配賦表

廳名	内	廳名	内
官房	軍務軍務	陸軍築城本部	一 本部一支部
軍務局	兵務兵備防衛	陸軍兵器本部	本部一支部
整備局	戰術工政資源	陸軍兵器本部	本部一支部
兵器局	銃砲一機銃	陸軍經理學校	本部一支部
參謀本部	本部大學校	陸軍經理學校	本部一支部
教育總監部	本部一機銃	陸軍經理學校	本部一支部
航空總監部	本部一機銃	陸軍經理學校	本部一支部
陸軍航空本部	本部一機銃	陸軍經理學校	本部一支部
陸軍航空本部	本部一機銃	陸軍經理學校	本部一支部
陸軍技術本部	本部一機銃	陸軍經理學校	本部一支部
航空本部	本部一機銃	陸軍經理學校	本部一支部
台灣軍	本部一機銃	陸軍經理學校	本部一支部

昭和五年六月三十日部印刷
總數一五三部外數四七部

0465

備考	第一飛行集團	第一	第一條 第一飛行團	第十四師團
	近衛師團	第二	第二條 第二飛行團	第十五師團
	第一	第三	第三條 第三飛行團	第十六師團
	第二	第四	第四條 第四飛行團	第十七師團
	第三	第五	第五條 第五飛行團	第十八師團
	第四	第六	第六條 第六飛行團	第十九師團
	第五	第七	第七條 第七飛行團	第二十師團
	第六	第八	第八條 第八飛行團	第二十一師團
	第七	第九	第九條 第九飛行團	第二十二師團
	第八	第十	第十條 第十飛行團	第二十三師團
	第九	第十一	第十一條 第十一飛行團	第二十四師團
	第十	第十二	第十二條 第十二飛行團	第二十五師團

配賦表

昭和三十五年六月 日五二四部印刷
部残数五八部

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

[illegible]

0468

九八式固定機關銃審査成績ノ概要

昭和十四年七月三日
陸軍航空技術研究所

0469

第一	審査ノ目的
第二	判決
第三	審査一般ノ成績
第四	審査經過ノ概要

目

次

九八式固定機關銃審査成績ノ概要

第一 審査ノ目的

獨國ラインメタル社製固定機關銃ニ就キ制式兵器トシテノ適否ヲ判定スルニ在リ

第二 判決

本銃ハ航空機用機關銃ニ必要ナル諸要件ヲ充足シ優秀ナルヲ以テ航空武器トシテ制定スルヲ適當ト認ム

第三 審査一般ノ成績

一 構造及機能ノ概要

(一) 本銃ハ銃身後座反動利用旋回門子式ニシテ銃身、被筒、尾筒、尾筒底、銃尾機關及附屬部品ヨリ成ル 其ノ構造ハ全体圖ニ示ス如シ

(二) 本銃ハ彈丸發射セラル、ヤ銃身ハ反動竝ニ銃身前端ニ作用スル瓦斯壓ヲ受ケ滑走筒ト共ニ遊底ヲ結合セル儘後退シ次デ門子ハ

尾筒周ノ軌道ニ依リ旋回シ滑走筒ト遊底トノ結合ヲ解クト同時
ニ遊底ヲ加速シテ後退セシメ藥莢ヲ排出シテ遊筒ニ鉤スルニ至
ラシメ銃身及滑走筒ハ停止ス依ツテ次發實包ガ保彈帶ニ依リ藥
室上ニ送致セラレアル時引鐵ヲ引ケバ連發ス給彈ノ爲五〇〇發
用ノ保彈帶ヲ有ス

ニ主要諸元左ノ如シ

口	徑	(耗)	七・九二
銃	全長	(耗)	一・八〇
銃	全重量	(尅)	一〇・一
發射速度	(發/分)		一〇〇〇
初速	(米/秒)		七五〇
保彈帶重量	(尅)	(五〇〇發分)	二・二
同(實包五〇〇共)	(尅)		一五・五
彈量	(瓦)	普通二三・七 徹甲二・五 曳光二〇・三	
實包重量	(瓦)		二六・二

三 機能試験ノ概要

本機關銃ハ機能優秀ニシテ故障ノ發生極メテ少ク故障ノ排除モ亦簡單ナリ即チ後述不足一〇〇〇發ニ一回生起スルノ程度ナリブ四ペラ面ヲ通ジテノ射撃ニ於テ射撃ノ散飛小ニシテブ四ペラ貫通故障モ生起セズ

四 命中精度

本機關銃ハ其ノ支點銃身軸線ト一致スルヲ以テ連續射撃ニ伴フ銃ノ振動少ク命中精度良好ナリ

五 部品ノ耐久度

本機關銃ハ部品ノ耐久度大ニシテ一萬發々射間ニ破損セシ部品ハ擊發子及轉輪各一ノミニシテ主要部品ノ龜裂等ヲ生ズルモノナシ

六 耐寒度

耐寒地（零下四〇度）ニ於テ耐寒試験ヲ實施セルニ耐寒油ヲ使用シ機能良好ナリ

七 實用試験ノ結果

明野陸軍飛行學校ノ意見左ノ如シ

本機關銃ハ射撃間ニ故障發生皆無且命中精度良好ニシテ八九式固定機關銃ニ比シ極メテ優秀ナリ 採用整備ノ價值十分ナリト認ム

第四 審査經過ノ概要

一 昭和十二年五月イリス商會ヨリ獨國ラインメタル社製七・九二耗機關銃其ノ他銃砲ノ調査ヲ受ケタキ旨陸軍省ニ出願ス

二 同年七月二十日陸軍省第四三三五號ヲ以テ陸軍省副官ヨリ陸軍航空本部長ニ對シ陸軍技術本部ト協力シ前記願出兵器ノ調査實施方通牒セラル

三 同年十一月前記商會提出ニ係ル固定機關銃ニ就キ陸軍航空技術研究所ニ於テ基礎試験ヲ實施セリ

四 昭和十三年二月陸軍科學研究所低溫實驗室ニ於テ零下四〇度迄ノ耐寒機能試験ヲ實施セリ

五 同年三月千葉縣富津射場ニ於テ命中機能及耐久試験ヲ實施セリ

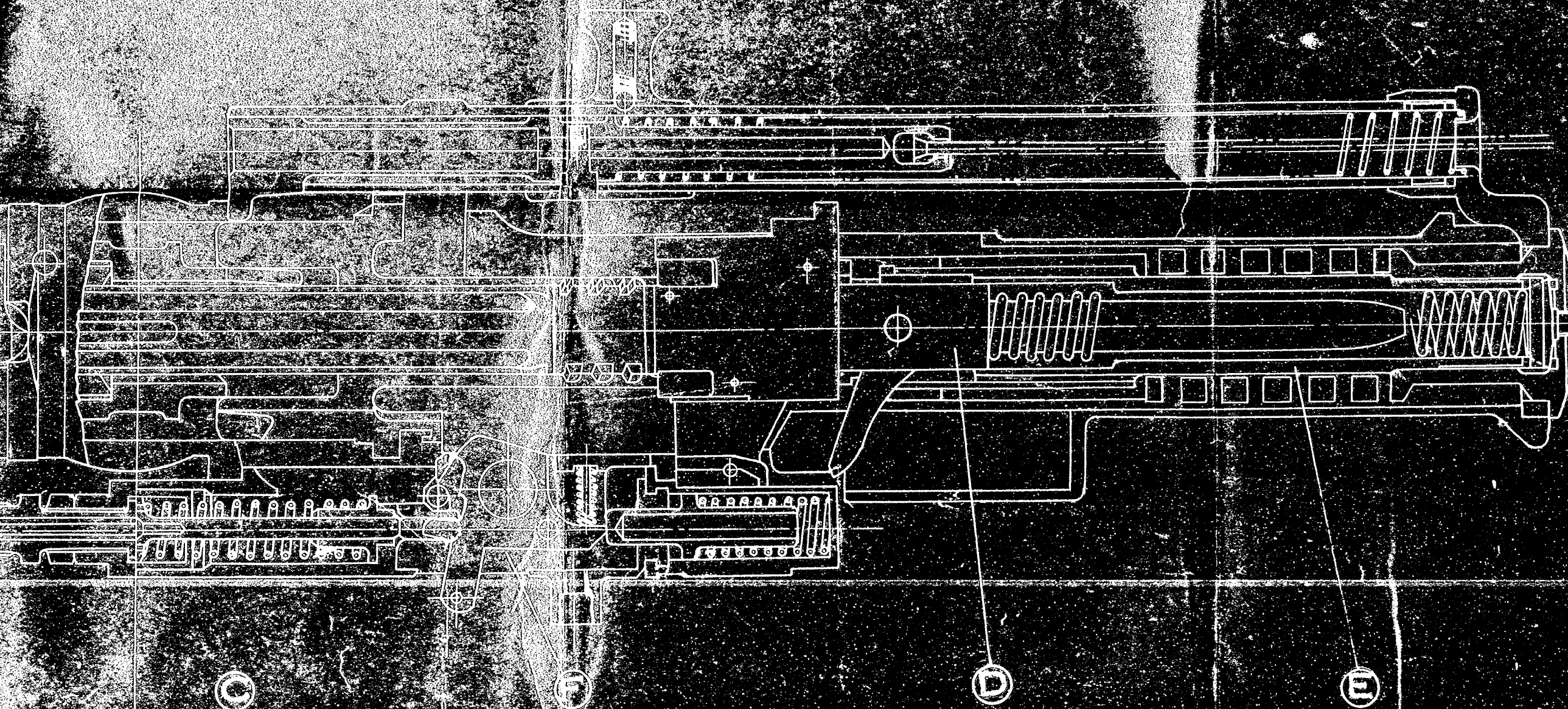
六 同年四月以降富津及陸軍航空技術研究所ニ於テ屢次ノ試験射撃ヲ

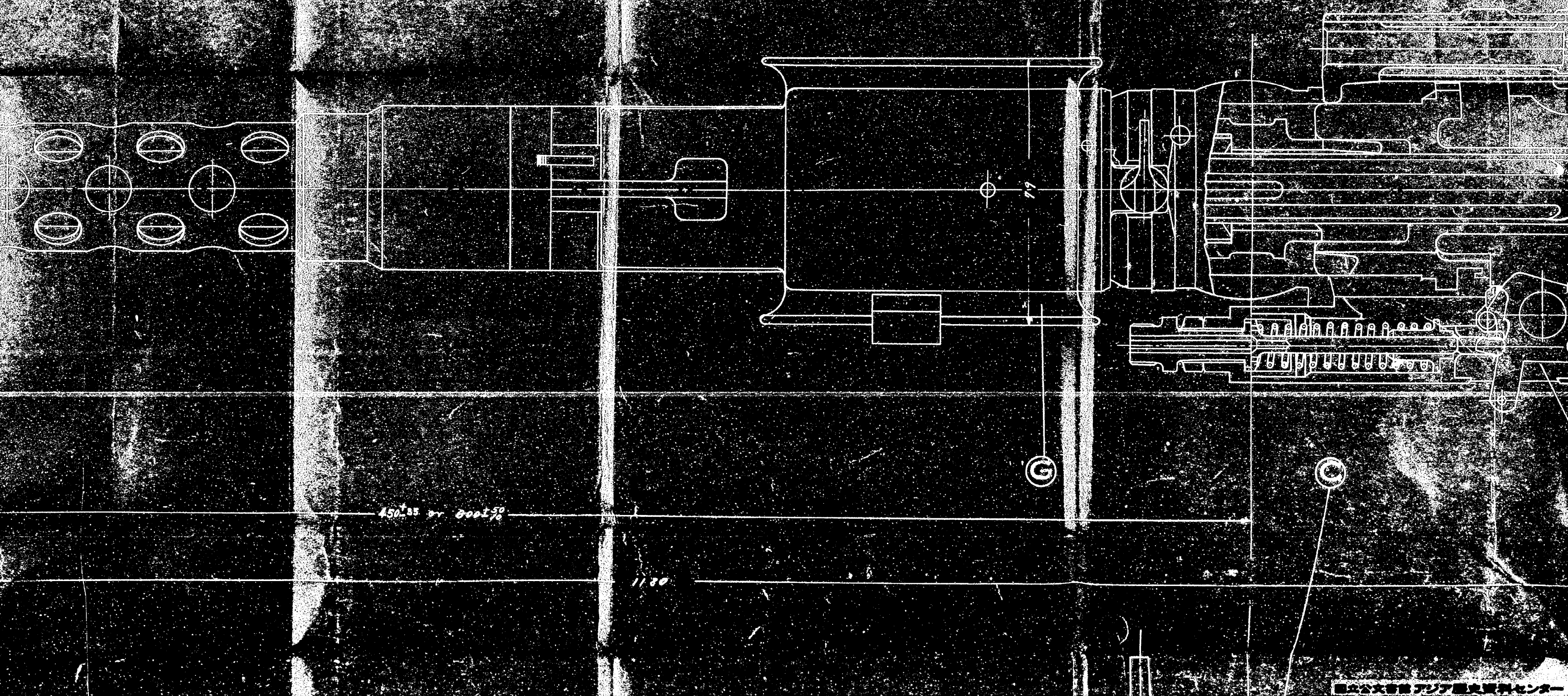
實施セリ

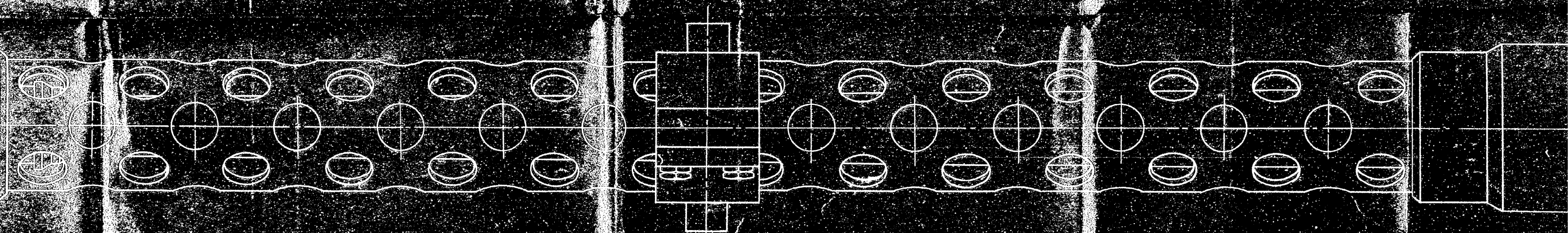
昭和十四年一月北滿ニ於テ耐寒試験ヲ實施セリ
八同年四月明野陸軍飛行學校ニ對シ固定機關銃ノ實用試験ヲ委託ス
以上審査ノ結果成績優秀ニシテ制式武器トシテ採用適當ナリトノ判
決ヲ得タリ

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	<table border="1"><tr><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td></tr><tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table>	5	6	7	8	1	2	3	4
5	6	7	8						
1	2	3	4						
分割撮影 した 理 由	A 3 判以上のため								
上記のとおり分割撮影したことを 証明する 5 年 12 月 17 日 主務者又は 撮影立会者 加部東 保夫 									



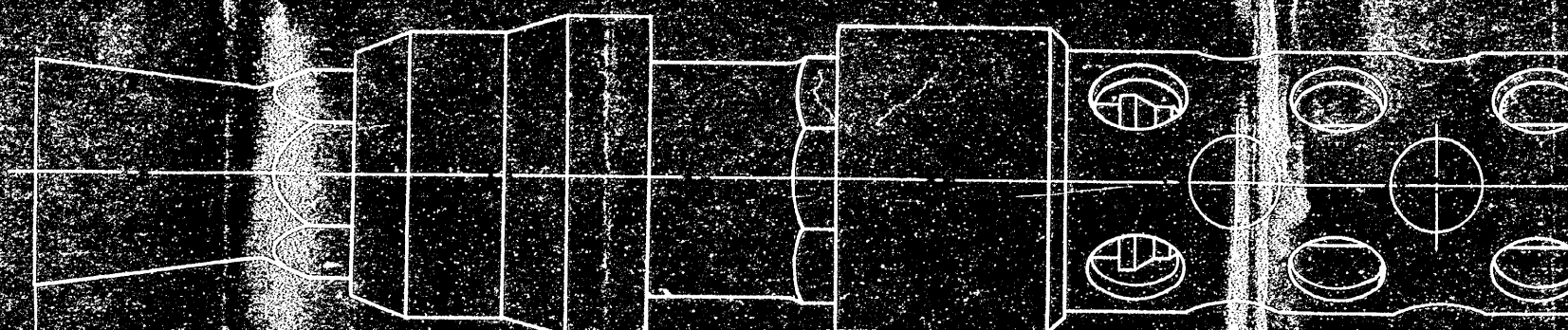




450⁺35

0478

0477





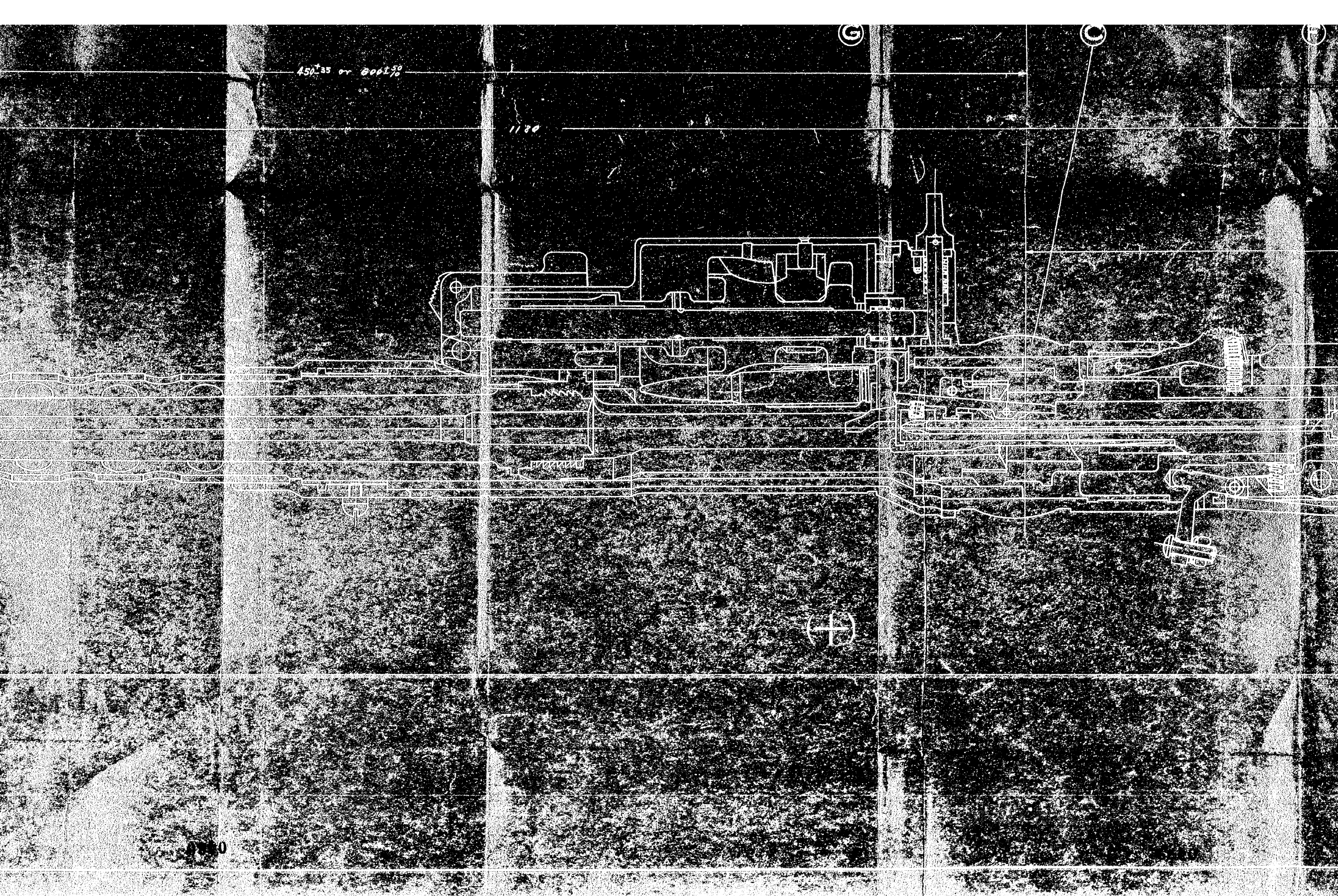
G	装填架
F	列銃室
E	尾筒座
D	銃尾機関
C	尾筒
B	被筒
A	銃身
行號	名稱

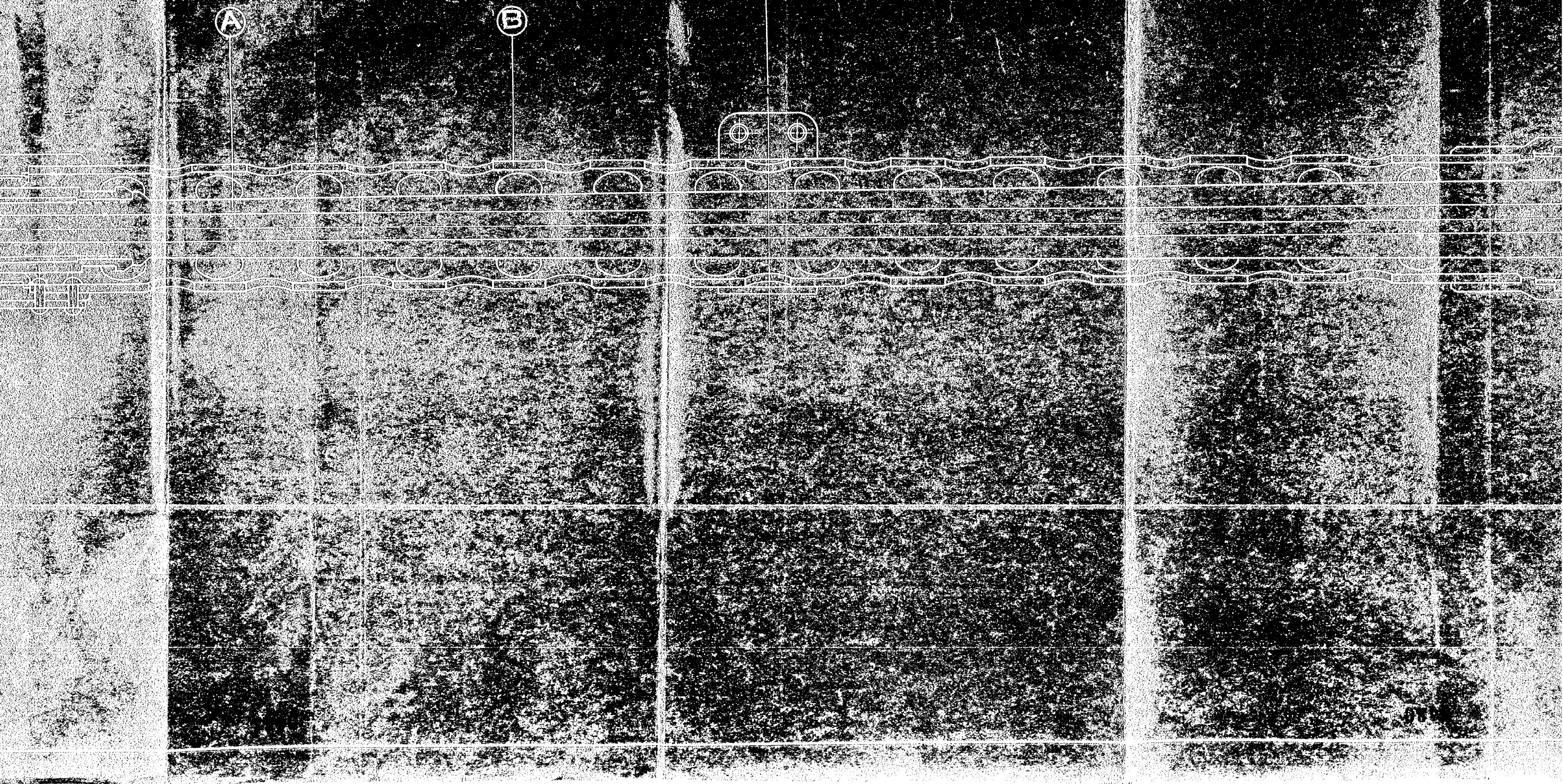
陸軍制式航空兵器圖 (航空武器)

九八式固定機関銃

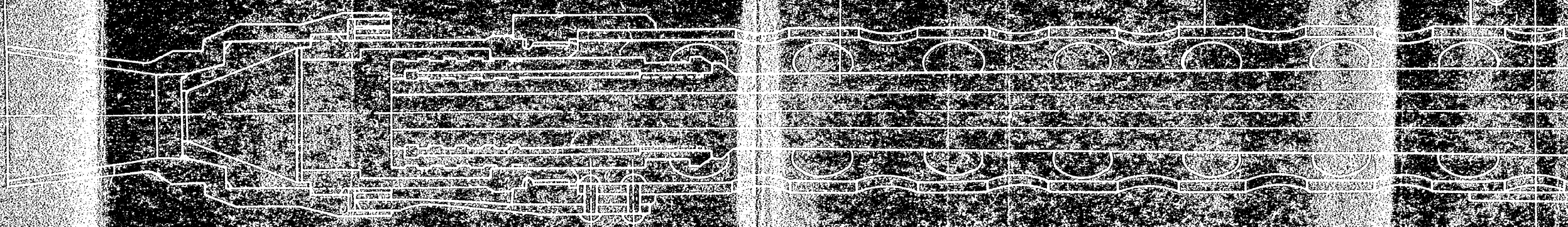
全体

昭和四年月日陸第 號制定	葉 香 號
陸軍航空本部印刷	





皇	宮	御
所	御	所
所	御	所
所	御	所
所	御	所
所	御	所
所	御	所
所	御	所
所	御	所
所	御	所



A

B

0481

人



保有限

陸

決 裁 案

首題兵器別紙兵器圖ノ通假制式トシテ制定相成度

追而本兵器ハ普通兵器トシテ取扱ヒ致度

右決裁ヲ請フ

陸
普

陸軍大臣ヨリ參謀總長ヘ

照 會

首題兵器假制式兵器トシテ制定致シ度該兵器圖竝ニ審査成績ノ概要相
添ヘ照會ス

追而本件ハ陸軍軍需審議會ニ於テ可決セラレタルモノナルニ付申添
フ

陸軍第四九六三號 昭和五年八月九日

右異存ナキ旨回答アリタル後左案決行

0484

陸 普

省副官ヨリ別紙配賦表ノ箇所へ 通 牒

首題兵器假制式兵器トシテ制定セラレシニ付關係圖書目錄ノ通送付
ス

追而本兵器ハ普通兵器トシテ取扱ハルルニ付申添フ

陸普第四二二一號

昭和十五年六月二十日

附屬品送附済

昭和拾五年七月貳日

陸 軍

配賦表

昭和五年六月二日
部印
紀藏教一五三部
殘數四七部

0487

備考	第一飛行集團	一	幕僚 兵器 飛行 隊	第十四師團		
	近衛師團			第十九		
	第一			第二十		
	第二					
	第三					
	第四					
	第五					
	第六					
	第七					
	第八					
	第九					
	第十					

九一式旋回機関銃細目名稱表

配賦表

昭和五十六年五月二日印刷
総機数四六二部 陸機五八部

廳名	内	配	内
官房	軍事軍務	陸軍築城本部	本部 支部
軍務局	兵務 兵備 防衛	陸軍兵器本部	本部 支部
兵務局	戦備 工政 資源	陸軍経理学校	本部 支部
整備局	銃砲 特機	陸軍経理学校	本部 支部
兵器局	本部 二 大学校一	陸軍経理学校	本部 支部
参謀本部	本部 一 防校 砲校 土 校一	陸軍経理学校	本部 支部
教育総監部	本部 一通校 習校	陸軍経理学校	本部 支部
航空総監部	本部 二 下校 三 明校 三 校四	陸軍経理学校	本部 支部
陸軍航空本部	本部 三 三 校二 校三 校四	陸軍経理学校	本部 支部
陸軍航空本部	本部 三 三 校二 校三 校四	陸軍経理学校	本部 支部
陸軍技術本部	本部 三 三 校二 校三 校四	陸軍経理学校	本部 支部
航空兵団	本部 三 三 校二 校三 校四	陸軍経理学校	本部 支部
台湾軍	本部 三 三 校二 校三 校四	陸軍経理学校	本部 支部

第一飛行系團	近衛師團	第十	第十一	第十二	第十三	第十四	第十五	第十六	第十七	第十八	第十九	第二十	第二十一	第二十二	第二十三	第二十四	第二十五	第二十六	第二十七	第二十八	第二十九	第三十	第三十一	第三十二	第三十三	第三十四	第三十五	第三十六	第三十七	第三十八	第三十九	第四十	第四十一	第四十二	第四十三	第四十四	第四十五	第四十六	第四十七	第四十八	第四十九	第五十	第五十一	第五十二	第五十三	第五十四	第五十五	第五十六	第五十七	第五十八	第五十九	第六十	第六十一	第六十二	第六十三	第六十四	第六十五	第六十六	第六十七	第六十八	第六十九	第七十	第七十一	第七十二	第七十三	第七十四	第七十五	第七十六	第七十七	第七十八	第七十九	第八十	第八十一	第八十二	第八十三	第八十四	第八十五	第八十六	第八十七	第八十八	第八十九	第九十	第九十一	第九十二	第九十三	第九十四	第九十五	第九十六	第九十七	第九十八	第九十九	第一百
第一飛行系團	近衛師團	第十	第十一	第十二	第十三	第十四	第十五	第十六	第十七	第十八	第十九	第二十	第二十一	第二十二	第二十三	第二十四	第二十五	第二十六	第二十七	第二十八	第二十九	第三十	第三十一	第三十二	第三十三	第三十四	第三十五	第三十六	第三十七	第三十八	第三十九	第四十	第四十一	第四十二	第四十三	第四十四	第四十五	第四十六	第四十七	第四十八	第四十九	第五十	第五十一	第五十二	第五十三	第五十四	第五十五	第五十六	第五十七	第五十八	第五十九	第六十	第六十一	第六十二	第六十三	第六十四	第六十五	第六十六	第六十七	第六十八	第六十九	第七十	第七十一	第七十二	第七十三	第七十四	第七十五	第七十六	第七十七	第七十八	第七十九	第八十	第八十一	第八十二	第八十三	第八十四	第八十五	第八十六	第八十七	第八十八	第八十九	第九十	第九十一	第九十二	第九十三	第九十四	第九十五	第九十六	第九十七	第九十八	第九十九	第一百

0490

九八式旋回機關銃審査成績ノ概要

昭和十四年七月三日
陸軍航空技術研究所

0491

第一	卷一、目的
第二	判決
第三	卷一、一般ノ成績
第四	卷二、通ノ概要

目

次

九八式旋回機關銃審査成績ノ概要

第一 審査ノ目的

獨逸ラインダタル社製旋回機關銃ニ就キ制式兵器トシテノ適否ヲ判定スルニ在リ

第二 判決

本銃ハ航空機用機關銃ニ必要ナル諸件ヲ充足シ優秀ナルヲ以テ航空武器トシテ制定スルヲ適當ト認ム

第三 審査一般ノ成績

一、構造及機能ノ概要

(一) 本銃ハ銃身後座反動利用旋回門子式ニシテ銃身、被筒、尾筒、尾筒底、銃尾機關、照準器及附屬部品ヨリナル 其ノ構造ハ全
 体圖ニ示ス如シ

(二) 本銃ハ彈丸發射セラル、ヤ銃身ハ反動並ニ銃身前部ニ作用スル
 瓦斯壓ヲ受ケ滑走筒ト共ニ遊底ヲ結合セル機構過シ次デ門子ハ

ニ主要諸元左ノ如シ

尾筒周ノ軌道ニ依リ旋回シ滑走筒ト連底トノ結合ヲ解クト同時
ニ連底ヲ加速シテ後退セシメ藥莢ヲ排出シテ連筒ニ鉤スルニ至
ラシメ銃身及滑走筒ハ停止ス使ツテ次發實包ガ彈倉ニヨリ藥莢
上ニ進致セラレアル時引鐵ヲ引ケバ連底ハ閉鎖シ藥發ス斯ク
シテ引鐵ヲ引キアル間連發ス彈倉ハ七十五發入併列鼓狀彈倉
ニシテばねノ力ニ依リ連發ス

口	徑 (耗)	七・九二
銃	全 長 (耗)	一・〇七八
銃	全 重 量 (底)	七・二
發	射 速 度 發/分	一〇〇〇—一〇〇〇
初	速 度/秒	七五〇
彈	倉 重 量 (底)	二・五
同	(實包七五發入) (底)	四・二
彈	量 (瓦)	普通二・七微甲二・五曳光二・五
實	包 重 量 (瓦)	二六・二

馬機簡試驗成績ノ概要

本機簡銃ハ機簡優秀エシテ故障ノ發生極メテ少ク故障ノ排除亦簡
單ナリ即チ抽筒不良及突込ヘー、〇〇〇發ユ一箇位生起スルノ程
度エシテ復轉ヲ引ケバ之ヲ排除シ得

命中精度

本機簡銃ハ其ノ支點銃身軸線ト一致シアルヲ以テ遠近射撃ニ伴フ
銃ノ振動少ク命中精度良好ナリ

五部品ノ耐久度

本銃ハ部品ノ耐久度大エシテ一萬發發射間ニ毀損セシ部品ハ僅重
二、彈發子一、發子一エシテ主要部品ノ龜裂等ヲ生ズルモノナシ
六耐 度

附寒地（零下四十度）ニ於テ試驗シタルニ耐寒油ヲ使用セバ機能
良好ナリ

七採用ノ便否

本機簡銃ハ小運搬量エシテ重量七・二斤七五匁入庫會ヲ裝シタル

場合ニ於テモ一一。四座ニ止リ銃耳ノ取付簡便式ニシテ簡単操作
容易且採用願ハレナリ

八 實用試験ノ結果

明野陸軍飛行學校及濱松陸軍飛行學校ノ本銃ニ對スル意見次ノ如

シ

一 採用性

本銃ハ重量輕量ニシテ支軸位置適ニ構建適當ナルヲ以テ發射ノ
反撞少ク採用ハ良好ナリ

二 命中精度

本銃ハ發射ノ反撞少ク機銃容易ナルヲ以テ命中精度ハ良好ナリ

三 銃ノ故障

本銃ハ故障ノ生起極メテ稀ニシテ一大特長ト稱シ得ベク又故障
發生スルモ其ノ排除容易ナリ

四 綜合的意見

本銃ヲ速ニ制式トシテ採用スルヲ要ス

第四 審查經過ノ概要

一、昭和十二年五月イリス商會ヨリ獨逸ラインダタル社製七・九二格
航空機用機關銃其ノ值銃砲ノ調査ヲ受ケタキ旨陸軍省ニ出願ス
二、同年七月二十日陸普第四三三五號ヲ以テ陸軍省副官ヨリ陸軍航空
本部長ニ對シ陸軍技術本部ト協力シ前記願出兵器ノ調査實施方通
牒セラル

三、同年九月イリス商會提出ノラインダタル製英國機關銃ニ就キ陸軍
航空技術研究所ハ陸軍技術本部及明野陸軍飛行學校ト協力シ地上
ニ於ケル命中機能試験並ニ空中ニ於ケル有板的及吹流的射撃ヲ實
施セリ

四、昭和十三年二月陸軍科學研究所低溫實驗室ニ於テ零下四〇度迄ノ
耐寒機能試験ヲ實施セリ

五、同年三月千葉縣富津射撃場ニ於テ兩種銃ノ命中機能及耐久試験ヲ
實施セリ

六、同年四月以降富津及陸軍航空技術研究所ニ於テ屢次ノ試験射撃ヲ

實施セリ

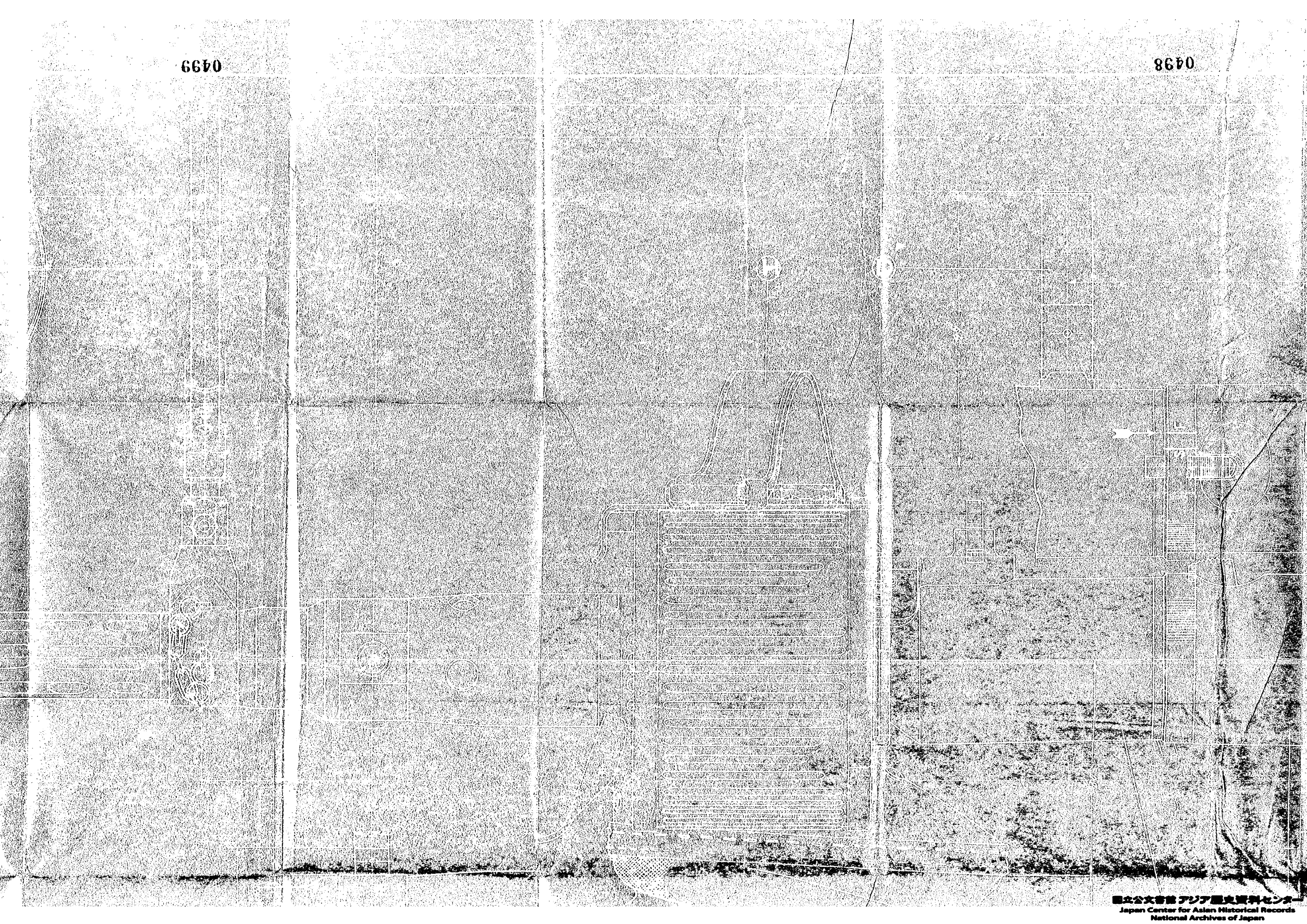
十四年五月明野及濱松陸軍飛行學校ニ對シ實用試驗ヲ委託シ六月東
條了ス

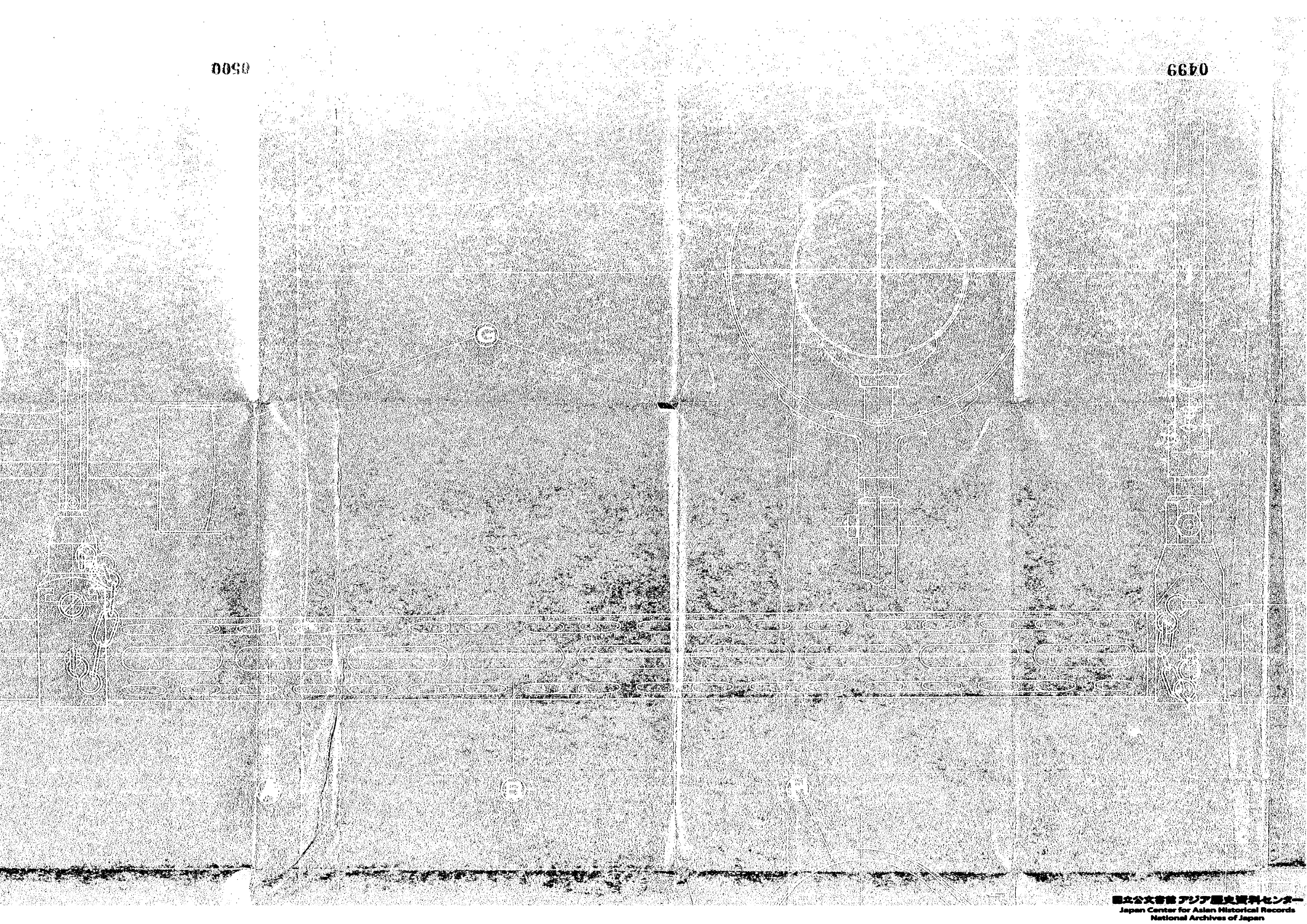
八昭和十四年一月北滿ニ於テ附屬試驗ヲ實施セリ

以上審査試験ノ結果成績優秀ニシテ制式武器トシテ採用適當ナリ
トノ判定ヲ得タリ

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	<table border="1"><tr><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td></tr><tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table>	5	6	7	8	1	2	3	4
5	6	7	8						
1	2	3	4						
分割撮影 した 理 由	A 3 判以上のため								
上記のとおり分割撮影したことを 証明する									
5 年 12 月 17 日									
主務者又は									
撮影立会者 加部東 保夫 									







0502

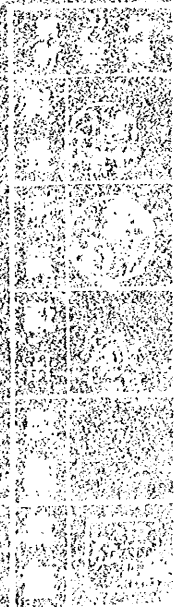
石印刊行 概説大分県 (新編 大分県)
凡八五號 日機出版
全一冊
昭和四年一月 刊行 著者 藤田 虎次郎
印刷 藤田 虎次郎 印刷

0503

0502

0504

0503



0505

0504

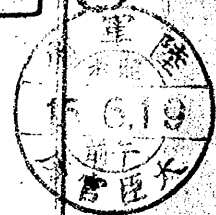
9090



祕

十五年
参 第 一 〇 五 八
五 九

大本營
陸軍部
参 密 第 一 八 〇 號 第 一



軍

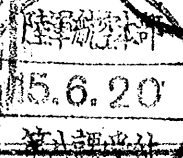
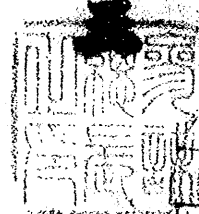
陸普第四九六三、第四九六四號照會ニ關スル件回答

昭和拾五年六月拾八日

参謀總長 載仁親王

陸軍大臣 畑 俊六 殿

陸普第四九六三號及第四九六四號照會ニ關スル件異存ナキニ付同
答ス



日本標準規格 B-1

昭和十五年 陸 1054